



蓬萊町だより

日会部
町部
30号
10月
4日
1974年
成行集
平発編

蓬萊町界限(その三十五) 江戸の華と火消し(七)

林 順信

□ 火事と喧嘩は江戸の華

いま町の各所に貼られて居るポスターに、俳優の加藤剛が大岡越前守に扮するカラー写真があつて

「火事断じて許さず」「触れ合いの心でつなぐ防火の輪」と言う標語が印刷してある。

加藤剛は都立小石川高校から早稲田大学に進んで、「小石川の光源氏」と高校時から好男子ぶりには定評があつた。話を元に戻すと、大岡越前守が、後に述べる様に江戸町火消しの誕生に一役かつたからで、昔から江戸に多き物の地口に、

「武士 鯉 大名小路 広小路 火消し 紫錦松 火事 喧嘩 伊勢屋 稲荷に 犬の糞」と言うのがある。「火事と喧嘩は江戸の華」と江戸っ子は自慢にならぬ事を得意にしていたのだから困つたものである。

天正十八年八月一日、家康は小田原落城後すぐさま江戸に入府した。その翌九月三日に、当時麹町にあった増上寺が炎上した。これが江戸期の最初の火事であつた。

新開地の江戸は年毎に家屋が密集し、慶長十四年(一六〇九年)には人口は早くも十八万人に達し、天和元年(一六一五年)には五十万人に急増したと言ふ。武家屋敷は瓦葺きだったが、庶民の家は板葺きだったから、いったん火の手が上がる、薪を燃やす様に必ずと言ふほど大きな火事になった。

当初、幕府は老中や、若年寄が、旗本や、御家人で組織された大番組や、御鉄砲百人組や、小姓組と言ふ戦時其のままの部隊を指揮して消火に当つたが、火事と戦争とは全く別で、専門職でない限り、鶴合の衆にひとしく効力は皆無だったと言ふ。しかも、江戸城や、武家屋敷に関してだけ力を注いで、民家は焼けるにまかせると言ふ有り様だった。

□ 世界最初の消防隊だが……

三代將軍家光の時代、寛永六年(一六二九年)老中の名で奉書によつて大名を非常招集した。これが「奉書火消し」と呼ばれ、我国最初の消防隊であつた。

外国で最も古いと言ふロンドンの消防隊が出来たのは一六六六年ロンドン大火のあつた年だったから、我が国の方が三十七年も早かつた。然し、年

代は早くても、その実力の程は疑わしく、江戸っ子からも馬鹿にされた。

何しろ、火事が発生してから、奉書なる命令書が出され、それを受けた大名や、家来達がやおら甲冑姿で物ものしく身を固め出動するが、大方は火勢に袖手傍観と言ふ態で、手の出し様もなかつた。藤室高次の屋敷が類焼したときは、

「伊勢武者は家に火おどし鎧着て、大黒柱焼け落ちにけり。」と狂歌まで出来た。

寛永期の江戸の人口は六十万を越すと言われ、火事による幕府や、武家、民家の損失は、莫大なものだった。

以後、幕府は対策を練り、試行錯誤で「大名火消し」「定火消し」「方角火消し」「所々火消し」と、形式と体制を工夫するが、まだ町火消しの誕生は、享保四年の大岡越前守の時まで待たねばならなかつた。

次回からは、もう少し具体的に江戸の火消しの生い立ちについて述べる。

町会活動の概要

平成6年11月下旬から

平成7年3月中旬まで

総務部

にて

11/29 「文京区を愛する会」区民センターにて

12/13 向丘地区町会連合会、宿泊研修会

12/20 地下鉄三者協議会開催

1/17 兵庫、淡路地方に大地震発生、甚大な被害を蒙る(兵庫県南部地震)

2/2 「区政についての意見交換会」区役所21F大会議室にて

2/6 「第26回つつじ祭り」実行委員会(総務部)第一回打合せ

2/7 この度の「阪神大震災」によって被害を蒙られた被災者の皆様方への救援に少しでも役立てばと考え、町内の皆様に義援金の募金をお願いいたしましたところ、大勢のご賛同を得まして、下記の金円をお預かり致しました。

この金円は本日、区役所の募金窓口へ納付致しましたのでお知らせと共に報告申し上げます。

一金 八十万六千円(三三三件)

2/22 「つつじ祭り」実行委員会(総務部)第二回打合せ会議、蓬萊町会担当奉仕日

1. 神社境内巡回警備 4/16(日) AM10:00〜 PM4:00

2. 甘酒茶屋販売奉仕 5/4(祭) AM8:00〜 PM4:30

3/3 地下鉄三者協議会開催される

1. 駅舎内の工事は順調に進んでおり、完成まで後僅か

2. 今後は、道路の復旧工事を傾注して行う

3. 当該工事箇所営業開始は平成8年3月の予定

3/3 蓬萊町会内、区設児童公園連絡委員の選任依頼の件

1. 大観音児童公園、島田昭博様 再任

2. 向丘二児童公園、倉田富雄様 再任

町会より再任をお願いし、委員をお引き受け戴きました。

防災 防火部

11/1 区役所防災課より町会防災用品として次の備品が貸与されております、(平成6、7年度、2ヶ年度分一括支給)

1. 自家発電機(ヤマハ)一台 最大発電容量270W

2. 誘導灯 三本 乾電池単一 二二本

11/9〜15 秋の火災予防運動実施される

2/17 本郷防火協合理事会開催される

3/1 「春の火災予防運動」実施される

1. 運動期間中のアンケート(無記名) 聞き取り調査

設問: 阪神大震災の火災被害に鑑み、もし東京で同一規模の火災発生にはどのように対処するのか

3/7 向丘町会連合会(12町会)間に於て非常災害発生時の相互連絡及び救助連係組織網の

設立提言について

(案) 向丘町連傘下、各町会に向丘地区自衛連絡組織の要員を定め、常に会合を以て組織間の強化連係を保つ事に務める。

防 犯 部

「歳末夜警」12/23(金)から12/29(木)まで延べ7日間実施、歳末夜警は、防火、防犯の見地から青年部を主力に両部部員及び役員全員が参加をして行いました。

文 化 部

11/15 「蓬萊だより」第40号発行

1/15 成年式をお迎えの皆様、誠におめでとうございます。町会会員のご子弟で本年該当なさる方は13名でした。大きな望みを胸に戴いて、目標に向かい羽ばたく皆様に町会としてささやかながら祝品をお贈り致しました。なお、成年式をお迎えになった方の皆様のお名前は次の通りです。

記

金子佳織様 遊佐美保子様 室屋千賀子様

岡田育子様 宗像純子様 小池紀子様

倉田 綾様 白井尚登様 高野秀和様 田中

克明様 高野竜太様 福本雅春様 坂本大介様

3/25 小学校へ入学のお子様、誠におめでとう存じます。お子様方の健やかな育成と健康を心

より祈念申し上げますと共に町会より記念品をお贈りします。

なお、お子様のお名前は次の通りでございます。

記

浅野文亮君 高木一平君 中島大地君

衛生部

11/21 区役所保健課より配布された「殺鼠薬剤」を必要とされる方を申告して戴いて各地域役員を通じて配りました。

2/24 「殺虫剤スミチオン」の配布希望調べが区役所よりありましたので、配布を申請しました。後日（4月下旬入荷予定）入荷次第お配り致します。

青年部

11/27 地域振興事業、向丘地区町連共催「ドッチボール大会」が開催されました。当町会は大いに頑張って3位に入賞。

12/23〜29 「歳末夜警」青年部員をフル動員して連日敢闘。

3/5 「恒例餅つき大会」気掛かりな大雪予報も幸いにハズレ、小春日和のぬくもる日差しの中、大勢の皆さんご参加を得まして賑やかに催しを営む事が出来ました。

婦人部

12/9 「根津、向丘地区ゴミ減量対策懇談会」生涯学習館にて

12/12 「歳末助け合い募金」本日、福祉協議会に納付しました。

一金 二十万二千五百円

計報

当町会にお住いの方で、昨年10月下旬から本年の3月下旬までの間に逝去なされた方のお名前は左記のとおりでございます。

慎んで哀悼の意を表し、心よりご冥福を祈念申し上げます。

記

五十嵐しず美様 安藤時弘様 原 典順様
島田俊匡様 高橋富美様 近藤弘之様
石川鳥子様

根津神社あれこれ ーその二ー

池田 暉

天保七年（一七三〇）江戸神田の名主、斉藤月岑が上梓した「江戸名所図絵」巻之五に、根津権現社の俯観図がある。その絵の楼門の上、現在のつつじ苑の左手に小さく「上野尾天神」と書か

れ、鳥居と小社が見られる。

なぜ「天神様が根津様の境内に祀られているのか」と興味を抱いて「文京区神社誌を開いて見た。根津神社に残る史料の中に、御預りの営社の一つとして、

上野尾天満宮（間口一間、奥行七間）、拜殿（九尺四方）、近江国高嶋郡海津西浜に鎮座これあり写しに候、とあった。

たまたま親しい知人が、滋賀県大津の近江神宮にいますので聞き合せてた処、琵琶湖の西北岸に現存することが判かりました。一月中頃、思い立って、上野尾天満宮（現在は、海津天神社）を訪ねました。大津から一時間余、人影も疎らな湖西線マキノ駅の北三百米程の山ふところに、一見してそれとわかる森があり、折から降り出した牡丹雪が舞って尊厳なたゞずまいでした。あらかじめ電話を入れてありましたので、七時半ばと思われる藤田長政名譽宮司が快く対話に応じて下さいました。

海津天神の勧請は建久二年（一一九二）後鳥羽天皇の世で、勧願所として毎年朝廷よりお代参、お供物が献じられ、社領として百三十石が寄進されている。当時この辺りの小山に藤が群生していた因んで、藤田と名乗ったと云う。織田信長の世となって、社殿は焼き討ちにあい社領は没収されたが、天正十三年（一五八五）豊臣秀吉、更に、慶長初年（一六〇三）徳川幕府により旧領の一部が返還された。社家は二家あり、一つは藤田氏、

他が伊吹氏であったが、寛永十八年（一六四一）氏子内に神輿をめぐる争いが起こり、その訴えが京都二城奉行、江戸寺社奉行と巡って、万治三年（一六六〇）ようやく決着を見た。

その争いと言うのは、寛永十八年海津東浜三町で天満宮大嶽社の神輿を造ったが、西浜の衆から、天満宮は元々西浜の氏神であるから東浜の衆が神輿を造ってはいけなと争った。天津の有力者が中に入って調停も行われたが調はず、万治三年、両者を江戸に召して裁決があり、西浜方に加担していた伊吹氏を追放し、東浜の藤田氏を正統として以後、天満宮は東浜西浜両町の氏神と定められた。この争いの源は、実は領主の境界争いに起因したという話もあり、社域が加賀の前田家と柳沢甲斐守の領地の境界にあり、氏子である領民もそれに巻込まれていたと考えられる。現に、前田、柳沢両家とも海津天神に度々、武運長久、五穀豊穡を祈願した記録が残されている。騒動の種となった神輿はこの間二十年、竹生島に預けたまゝとなっていたという。一方、根津神社の史料に拠ると、

旧根津神社は、千駄木坂（団子坂）上に在って、その昔、駒込村の草分け百姓達（山本八左衛門、青木六左衛門、他）が集まって年々祭り供物等を奉げていた小社であったが、宝永三年（一七〇六）甲府宰相松平綱重の下屋敷跡地に引き移り造営されたのが現在の根津神社である。

後に徳川六代將軍となる家宣は、幼名を虎松といい寛文二年（一六六二）四月二十五日に、この下屋敷で生まれた。その生誕のお宮参りは、千駄木坂上の旧根津社で翌月の五月二十八日に行われた。当時、根津社には神主が居らず、本郷薬師の僧が別当として世話をしていた。

虎松君のお宮参りには父、松平綱重の本邸、桜田屋敷の守護神、桜田稲荷の神職をしていた伊吹右京昌次の息子、左京がお供をしている。

伊吹右京に就いては、『故あって万治年中、江戸へまかり来し、清揚院様（松平綱重）御下屋敷並びに上屋敷、鎮守稲荷御預り、御上屋敷内お長屋を下さる。』と書かれている。

つまり、海津西浜の天満宮社家であった伊吹右京が、万治三年に海津を追放された後、何等かの繋りで、松平綱重に召し抱えられ屋敷神の神職となった。そして、その子の左京が、綱重の子、綱重、つまり後の徳川家宣將軍のお宮参りの神官をつとめたということである。

伊吹右京は貞享四年（一六八七）七月に病没するが息子の左京昌輝が後を継ぎ、新社殿造営に力を尽したがその完成（宝永三年十二月四日落成）を見ずして、宝永三年九月に病死した。その子左門昌明が左京亮と名のつて三代目を相続した。その後九年を経た正徳四年（一七一四）、九月はじめて大祭が行われ、練り物五十番、百五十四町が参加して江戸城吹上の上覧所で七代家継將軍の上

覧を得た。今に伝わる「天下祭」である。この時の祭を主宰した神主、伊吹左京亮も享保八年（一七二三）四月に病没。その後、初代から数えては八代まで子孫連綿として根津社の社職を勤めたと伝わっている。

編集後記

新緑の季節を迎え、風薫る爽やかな心地よい時期になってまいりました。

とは言えこの季節は、卒業、入学、進学、就職と一年の節目ともいえる大切な転機を迎える方も多いことでしょう。

町会事業も年度末を迎え、一年の総ざらい行いますと共に新年度に向かって始動が開始されます。特に本年、強く感じるものは「阪神大震災」の都市型災害を目的に当たり、私たちの住む町を、また、人命を守るのは近隣の方々との交流を基調とする相互の団結と助け合いが何より大切な事と言う事実を教訓として伝えていきます。

町会組織を一つの核として、更には各地域の交流と親睦を深めて相互信頼の上に成り立つ、団体の育成に微力ながら力を注いで行く所存であります。会員皆様におかれましてはこの意を十分ご理解賜り、一層のご尽力をお願い申し上げます。

編集委員

小林音吉 川西正造 竹中一馬 猪熊良晃
池田 暉